

全国的なノコギリ屋根工場の 写真記録を通した 建築文化発信と普及活動

吉田敬子 殿 Keiko Yoshida

選考理由

建築写真家・吉田敬子氏は、1998 年から日本各地に残るノコギリ屋根工場を記録し続けてきた。織物工場として多数のノコギリ屋根工場が残る群馬県桐生市を起点に、1 都 32 県にわたり撮影を展開し、これまでに撮影したノコギリ屋根工場は 3,000 棟を超える。

日本の近代化に大きく寄与した織物産業の一端を支えたノコギリ屋根工場は、絹産業の衰退、都市開発事業や所有者の世代交代に伴い、次々と姿を消してきた。吉田氏は、25 年以上にわたりライフワークとしてその姿を追い続けている。それらの成果をまとめた作品集には、世界遺産登録に先駆けて発行された『写真集 富岡製糸場』（片倉工業、2007 年）や全国各地のノコギリ屋根工場を収録した『のこぎり屋根紀行』（上毛新聞社、2016 年）などがある。全国のノコギリ屋根工場を探し、建物内部の空間を記録するため、所有者を探して撮影許可を得ることは並大抵のことではなく、産業遺産としてのノコギリ屋根建築のドキュメンテーションとしても大きな社会的価値が認められる。

さらに、建築写真を通した建築文化の普及活動にも多大な尽力をしてきた。吉田氏は撮影と並行してノコギリ屋根工場のある街で写真展を開催し、関連する街づくりシンポジウムに参加するなど精力的な発信活動が続いている。氏の写真撮影と発言の取り組みは、地元では十分に理解されてこなかった工場群の文化的価値を広く周知させるうえで、大きな役割を果たしてきた。『のこぎり屋根紀行』において、撮影がきっかけとなって、建物所有者がその価値を再発見するエピソードが度々紹介されている。真価を忘れられた工場に対して写真家が光を当てることを通し、その所有者や関係者に建物に対する誇りの気持ちが芽生え、それが地域のシビックプライド醸成にも繋がっている。たとえば、群馬県桐生市の「桐生市歴史的風致維持向上計画」など、ノコギリ屋根工場所有者の理解と協力無しには合意形成も進まなかったであろう。また、「建築写真の撮り方」講座も定期的に展開しており、撮影技術の啓発のみならず、歴史的建築の価値共有を願う学びの場ともなっていて、地域社会からも大きな期待を集めている。

吉田氏は、ノコギリ屋根建築を産業遺産として位置付け、無名の建築を発掘し、この分野を開拓してきた。各撮影現場では建築的魅力を共有する関係者どうしの交流を生み出し、建築文化を育むきっかけも創出してきた。記

録写真にとどまらない作品性に優れた写真を通して建築文化の発信と普及活動は大変意義深く、高く評価されるものである。

よって、ここに日本建築学会文化賞を贈るものである。

受賞所感

私がノコギリ屋根工場を初めて見たのは、新聞掲載の小さい写真だった。その写真が気になり、実物を見に行ったら驚きと感動で、その場に立ち尽くしてしまった。時が止まったかのような光景の中に建つノコギリ屋根は、大地にゆったりと佇んでいた。工場とは名ばかり、建物から溢れ出る迫力と造形美、そして内部空間は私を虜にした。撮影は 1998 年群馬県桐生市から始まった。全国各地を訪ね取材撮影をし、約 3,000 棟をカメラに収めた。「古くて汚い工場なんか写真に写さないで、もっと綺麗なものを写しなよ」と辛い言葉もあれば、火事で全焼した空地を見つめ「工場は焼けたけど写真は残ったよ。ありがとね」と涙した工場長の顔など、思い出は写真以上にある。昭和のガチャ万景気と呼ばれた時代（1950 年代から 70 年代）、全国の織物産地にはシンボルのように、ノコギリ屋根工場が建てられた。平成から令和と年号が変わり、解体され姿を消したノコギリ屋根は多い。工場は残っていても、その歴史を知る人が減少している。そこで私は空き工場を借り、工場内部で「ノコギリ屋根」の写真展を数か所で開催した。持ち主さんや機屋さんを招待して「ノコギリ屋根・保存と活用」のトークショーを行った。スライドショーでは、ノコギリ屋根の発祥地イギリスの例を紹介した。1827 年建設の「モスコウ・ミル」は築 200 年近いノコギリ屋根工場である。持ち主は工場を歴史資料館とショッピングセンターにして、保存と活用に取り組んでいた。トークショーに参加した人から連絡があった。祖父が建てた工場の、取り壊しが進む姿を見て「いつもの風景が無くなる。町の歴史も消えていく」と工場の再利用に取り組み、ギャラリーやカフェに活用している、仲間ができた。ノコギリ屋根は、明治・大正・昭和時代の日本の産業を築き上げてきた「産業遺産・職人の生きた証」だ。このたび、日本建築学会文化賞をいただき身に余る思いである。写真は記録再現という宿命的な使命をもっている。私は写真を通して、「産業遺産・ノコギリ屋根」の魅力と奥深い歴史を発信していく。



吉田敬子（よしだ・けいこ）
写真家／1954 年生まれ。東京工芸大学卒業。写真家・村井修氏に師事、建築写真を学ぶ。1987 年スタジオヨシダ建築写真事務所設立（東京）。1998 年全国の「ノコギリ屋根工場」取材撮影を始める。2002 年ののこぎり屋根シンポジウム・基調講演・群馬県桐生市。2005 年ノコギリ屋根発祥地・イギリスへ視察旅。2009 年 -2024 年写真展開始（東京、埼玉、群馬、愛知、兵庫県）。著書に『写真集・富岡製糸場』『のこぎり屋根紀行』